

自己評価		評価 (総合)
学校運営計画(4月)		
学校運営方針	子どもの可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加を目指し、心豊かにたくましく生きていく子どもを育てる。 ～10年後を見据え、子どもとともに成長・発展し続ける学校づくり「一歩前へ！チャレンジ 小郡特支」～	自己評価は、 A 適切である。 B 概ね適切である。 C やや不適切である。 D 不適切である。
昨年度の成果と課題	年度重点目標	
【成果】 ・スクールカウンセラー等と連携を図りながらケース会議を開催し、いじめや不登校及び進路相談における児童生徒への支援体制を構築することができた。 ・働き方改革推進委員会を活性化して、学校電話の受付時間を短縮したり、日々の児童生徒の出欠・遅刻等連絡を学校安心メールで対応したりするなど、職員が働きやすい環境づくりを推進することができた。 【課題】 ・教務課を含めた各分掌における業務内容のスリム化について、見直しを行うこと。 ・ICT活用の推進に向けて、生徒用ファイルサーバーを含めた校内フォルダの整理を行うこと。 ・授業実践と評価における授業改善に向けて、教科の系統性と子どもの実態の系統性を整理した観点別評価の充実を図ること。	具体的目標	
	具体的方策	

学校関係者評価	
評価 (総合)	項目ごとの評価
	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	教務課	育てたい資質・能力を明確にした指導計画の作成	単元一覧表に基づいた年間指導計画の作成について周知を図る。	
		学習指導要領に基づいた学習活動の充実と授業改善	個別の指導計画及び年間指導計画の内容と様式について次年度に向けた見直し、検討を行う。 学習計画や授業改善のための会議の持ち方を検討し、設定する。 学部間でも教材・教具の共有ができるよう保管方法を工夫し、学習活動の充実を目指す。	
		諸帳簿等の整理と効果的な運用	個人情報取扱いに基づいた諸帳簿の管理に努める。 個別の指導計画の内容の検討に伴い、通知表の内容や様式について見直しを行う。	
	情報課	校内ネットワーク及びICT機器等の活用環境の整備・充実	校内ネットワークやICT機器について定期的にメンテナンスを行い、授業で活用できるように保守を行う。 授業や校務において円滑に活用できるように、入出力装置の管理やICT機器の整備を行う。	
		ICT教育の推進	ICT機器を授業で活用していくうえで役に立つ情報の提供や研修を行う。 ICT機器を活用していくうえで必要な情報モラルについて情報の共有を行う。	
		オンライン学習とホームページ	オンライン学習に向けて、家庭の学習環境に関するアンケートの実施と端末の貸出を行う。 ホームページの更新や学校代表メールの確認を定期的に行う。	
生徒部	生徒支援課	児童生徒の主体性を育む教育活動の充実	各学部の企画を活かして、児童生徒一人一人が集団の一員として活躍できる場を設け、自主的態度を養う。 スマイル運動や人権教育を通して、児童生徒の自己肯定感を育む教育活動を推進する。	
		危機管理マニュアルの改善や体験・教材を工夫した安全教育の推進	余震を想定した訓練を、本校の実態やマニュアルに沿いながら実施し、災害への対応力を高める。 訓練後を中心に危機管理マニュアルの見直しを行い、より実際の緊急時や災害時に対応できるものへ改善を進める。	
		いじめの未然防止や不登校児童生徒への支援体制の構築	人権に関する研修会やいじめに関する研修会を実施する。 スクールカウンセラー等と連携を図りながらケース会議を開催し、いじめや不登校児童生徒への支援体制を構築する。	
	保健課	健康で安全な学校生活を送るための健康管理の充実	各学部と医療的ケアの支援体制から起こりうる緊急時の状況を検討し、緊急時対応シミュレーションを年1回以上実施し、共通理解を図る。 児童生徒の毎日の健康状態を把握するとともに、感染症に関する保健指導を行う。	
		安全で衛生的な給食管理と教室等の環境整備	28品目以外のアレルギーのメニューを提供しないため、配膳時の注意喚起を徹底する。 季節に応じた環境整備や清掃活動を行い、安全・安心な生活環境を保つ。	
		外部機関・指導医との連携と職員研修の充実	摂食指導や重複障がい教育、医療的ケアに関する研修を行い、安全・安心な生活環境を保つ。 安全かつ安心な医療的ケアが実施できるように、リーダー看護職員と医ケア係、担任等が連携し、学部や学年で共通理解を図る。	
進路部	進路指導課	生徒の実態に合った適切な進路選択のための職業体験の充実	作業担当者と連携して、学年を越えた職業指導及び現場実習に関する取組を推進する。 一人一人の特性に合った福祉事業所や就労先での実習ができるよう、就職サポーターと連携して進路先の開拓を行う。	
		小中高の系統的な進路学習の充実	学部及び学年間で情報共有を行い、児童生徒の発達段階や特性に応じた系統的な進路学習を実施する。 他分掌と連携して研修会の企画運営を行い、外部講師等を招いた学習会を実施し、進路選択の場を設ける。	
		保護者のニーズに応じた進路情報の提供及び地域との連携によるキャリア支援体制の充実	進路面談及び「進路だより」を通して、保護者のニーズに応じた進路情報を提供し、児童生徒の個々の課題解決に家庭と連携して取り組む。 外部機関の研修会等への積極的な参加や福祉課等の関係機関と密な連携を行い、職員の進路指導に関する専門性を高める。	
	企画庶務課	子どもを中心に見据えたPTA活動の推進	本校のPTA活動の内容を周知し、教育活動が円滑にできるよう連携を取るとともに、主体的な参加を促すような会則やマニュアル等の見直しを行う。 保護者のニーズに寄り添い、他の分掌部と連携しながら外部講師を招聘した研修を実施する。	
		学校の近隣地域や関係機関等との連携強化	学校、PTA、地域と情報交換及び意見交換を行い、児童生徒の安全確保、基本的生活習慣の育成に向けた連携協力を推進する。 学校安全協議会の情報交換の場を設けることで、地域学校協働活動体制を整える。	
		本校の魅力発信による地域の理解啓発	学校活性化事業の各学部の活動の中で、地域の方々との交流を深めた機会を設けることで、本校教育の理解や教育活動の充実を図る。 地域の教育力を生かした体験活動を通して、児童生徒の社会的視野を広げる。	

研修部	研修課	教職員のキャリアステージに応じた研修とOJTの充実	若年教員に対し、1年目には一般研修等を通して教員としての素養を培えるように教科指導員、指導教員と連携し、研修を企画する。 校内キャリアアップ研修10時間の年間予定を提示して本校教員の研修機会を促進するとともに、特別支援教育に関する専門性の向上を図る。				
		児童生徒の「できた」「わかった」を引き出す授業づくり	理論研究等を通してユニバーサルデザインに関する理解を深める。 授業づくりのポイント等協議する中で、授業技術の継承・発展に努める。				
		教育実習等の対外研修の計画的な運営と人材育成	教育実習及び介護等体験では、指導内容について指導教員が共通理解が図れるように例示や確認を行い、係内で連携を図りながら実施する。 校外の研修情報や特別支援教育に係る書籍等の紹介を通して、本校教員の研修機会を促進するとともに、特別支援教育に関する専門性の向上を図る。				
	特別支援課	地域支援・地域連携の充実とその人材育成	特別支援教育の推進に向けて、UDの視点に基づいた環境調整等、地域のニーズに沿った特別支援教育研修会を実施する。 経験のある教員と若年教員が共に相談業務に携わり、人材育成を図りながらセンター的機能の拡充を図る。				
		外部専門家や研修機会等を活用した専門性の向上	外部専門家やSCIによる専門的助言を記録整理して教員へ還元し、校内支援体制の整備を図る。 相談業務について、主訴や助言内容を元にした事例研修を課内や研修課と連携して実施し、専門性の向上を目指す。				
		校内支援体制の整備と充実	各学部に所属するCOの役割を見直し、ケース会議等への参加を促進して、校内支援体制の充実を図る。 教材等を集めた教材バンクの整理と情報発信を定期的に行い、校内での認知度を高め授業や指導等で活用しやすくする。				
小学部	明瞭簡潔な個別の指導計画の作成と説明及びICT機器を活用した指導の充実	保護者の願いや合理的配慮の観点から踏まえた見やすい計画を作成し、個に応じた指導の充実を図る。また、個人懇談会等でその成果や課題の補足説明を丁寧に行う。 ICT機器を積極的・効果的に活用し、個別の学習及びグループ学習等の充実を図る。					
	障がいの状態や特性に応じた指導・支援及び家庭(保護者)支援の充実	学部内の応援体制を生かし、配慮を要する児童への指導・支援及び家庭(保護者)支援の充実を図る。 学部に児童支援連絡会(月に1回)を設定し、緊急時対応マニュアルや配慮を要する児童等の情報共有及び対応についての共通理解を図る。					
	学部内や校外の関係機関及び外部専門家との連携の充実	学年会・学年グループ会(児童支援連絡会を適宜設定)や学年主任会(各学年グループの情報共有)及びICT機器(Classroom等)を活用し、学部内の連携を図る。 校内の関係分掌等や外部関係機関及び外部専門家等の積極的・効果的な活用及び連携、情報共有(学部会等で報告)を図る。					
中学部	学習指導要領に基づく教育課程の実践と改善及び安全・安心が守られる教室環境の整備	単元一覧表に基づいた系統性のある年間指導計画を作成し、生徒の実態に合わせた行事計画と実施後の課題に基づいた修正を図る。 教室や特別教室・廊下等の整理整頓を月に一回実施し、危険物の収納方法を点検する。					
	自立と社会参加に必要な資質・能力を育てる指導・支援の充実及び自己肯定感を育み、互いの良さを認め合う態度の育成	施設見学、調べ学習、現場実習を軸とした総合的な学習の時間における3年間の系統的な進路学習を実施する。 委員会活動や学部集会で生徒が活躍する場を設定し、一人一人の可能性を伸ばす。					
	学級、学年を超えた学部職員チーム作りと家庭、地域、関係機関との連携及び支援体制の充実	学部朝礼等を利用し、短時間の打ち合わせで継続的に生徒の情報共有を行い共通理解を図る。 生徒の将来を見据えた支援体制作りのため必要に応じて担当者会やケース会議を行い保護者・外部関係機関との連携を図る。					
高等部	卒業後の自立と社会参加に必要な力の育成を目指す学習指導の実践と改善及び学習保障	生徒の実態及び進路先で求められる力を把握して、単元一覧表をもとに学習内容を整理し支援の手立てを工夫する。 多様な生徒の実態に応じて、ICT機器の利活用を含めた教材教具の工夫改善とオンライン授業の実施等で生徒の学習を保障する。					
	生徒の安全・安心に留意しながら、個々の課題に対して主体的に取り組む態度の育成	ユニバーサルデザインの視点による教室等内外の環境整備及び生徒が互いを認め、支え合う力の育成を実践する。 個々の力を伸ばすとともに体験や集団活動、話し合いの機会を多く取り入れる等、進路実現に向けた社会性の伸長を目指す支援を行う。					
	学部職員及び家庭・地域・関係機関との連携の充実	保護者や外部との対応を真摯に行い、迅速に学部内で情報共有を図り、生徒支援に活かす。 学部朝礼や学部内会議及び端末等を活用して生徒の情報や支援方法を共有し、学級学年を超えた学部1チームの支援体制を整える。					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策	評価項目以外のものに関する意見